

大槌高校魅力化構想骨子
(第 1 期 大槌高校教育振興計画)

令和元年 11 月 13 日
大槌高校魅力化構想会議

1. 魅力化構想の趣旨・位置づけ

[趣旨]

大槌町は、「大槌町子供の学び基本条例」や「大槌町教育大綱」において、0歳から18歳までの学びの保障を掲げており、高等学校段階の教育の充実を進めているところである。

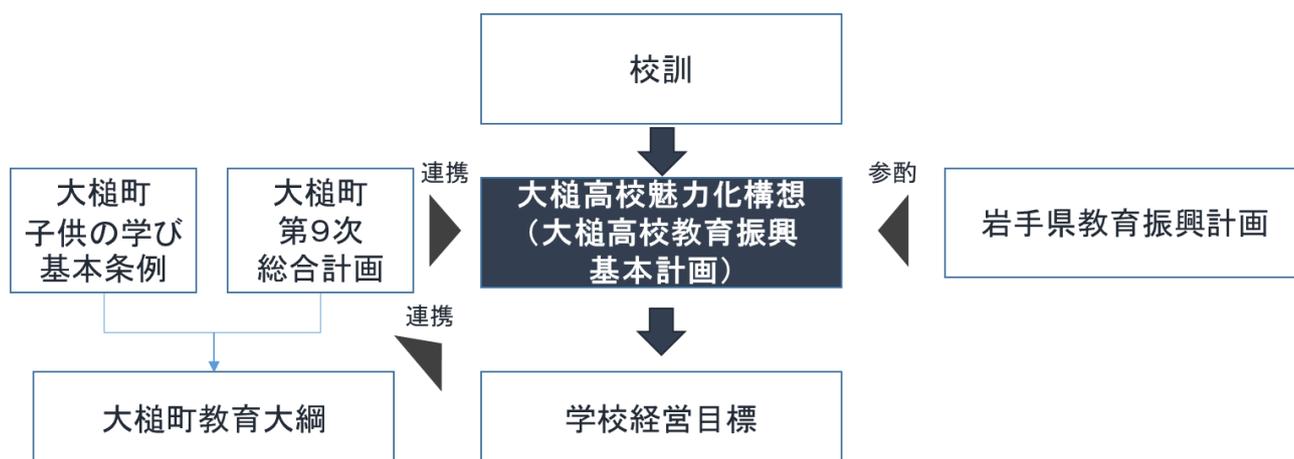
大槌高校には子どもたちと地域のよりよい未来をつくり続けてほしい。その実現に向けて、子供、高等学校、保護者、地域、町行政が目指すべき理念を策定した。

[位置づけ]

本構想は、高等学校及び大槌町、そこに関わる他関係機関が取りくむべき方針を明らかにし、目指すべき共通の目標の理解・浸透が図られるとともに、高等学校の教育活動の企画や見直しにおける指針を確たるものにするため策定する。

なお、本構想は大槌高校教育振興計画とし、計画の期間は2020年(令和2年度)～2029年(令和11年度)の10年間とする。また計画は5年で見直しをかけるものとする。

[他計画との関連]



¹ 「0歳から18歳まで」とは、0歳から高校教育を修了するまでのことを意味するが、便宜上「0歳から18歳まで」と表記する

2. 魅力化が必要な理由

[東日本大震災からの復興]

2011年の東日本大震災津波で大槌町は未曾有の被害を受けた。震災から8年半が経ち、ハード面での復興は目に見えて進んできた状況ではあるが、コミュニティの問題や少子高齢化の問題などは未だ解決されていない状況である。持続可能な地域をつくるためには、「三陸沿岸部の復興を担い、リードする人材の育成」が必要であり、そうした人材を育成するためには地域と協働しながら、高校教育をより充実していかなければならない。

[大槌高校の入学者推移]

岩手県教育委員会が示す新たな県立学校再編計画では、最低限の学校規模を1学年2学級とし、「2年連続20人を切った場合は募集停止」という条件が示された。大槌高校の入学者は、震災以前は100人～120人で推移していたが、東日本大震災津波の影響で町内の若年人口の減少率が激しく、令和元年度の入学者は42人となった。

町内進学率の実績と各年齢の町内の児童生徒数から令和2年度以降の入学者の予測を算出した（図1参照）。生徒の募集を増やす取り組みを行わないとすると、令和3年度には入学者が40人を下回ることが予測される（※40人を下回るラインを「再編議論本格開始ライン」と呼ぶ）。

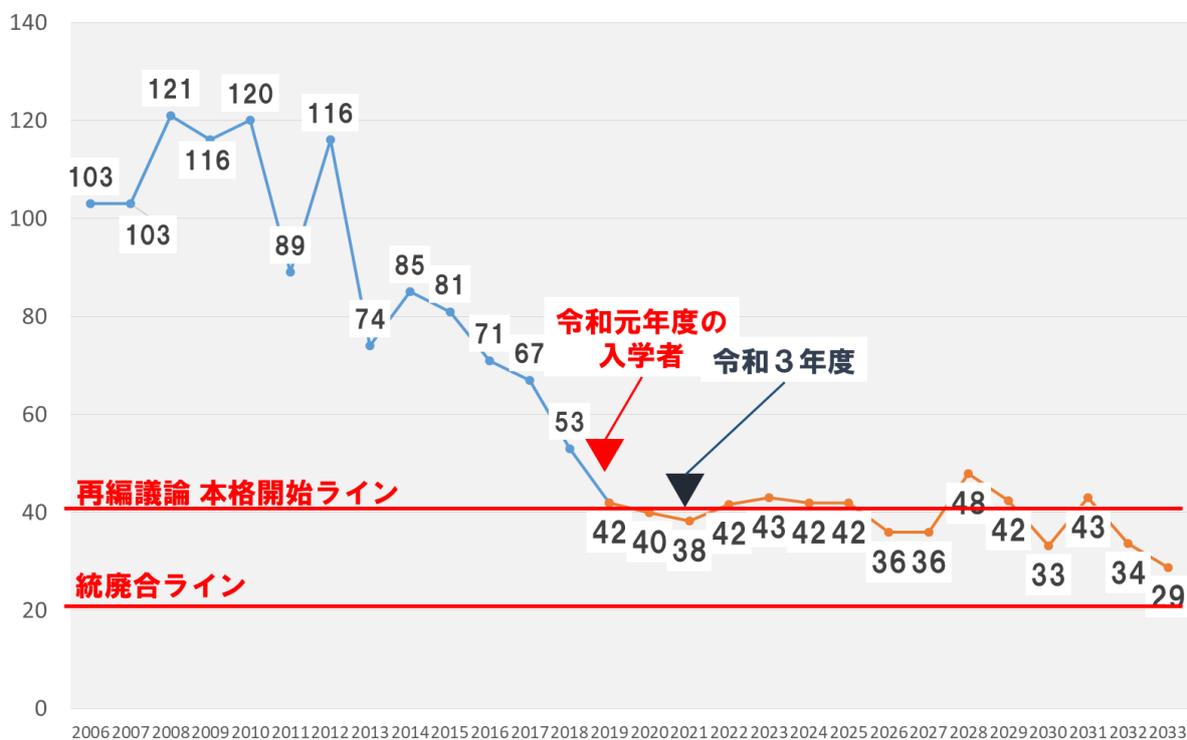


図1 大槌高校入学者生徒数の予測

[大槌高校が統廃合となった場合の損失]

損失は「経済的損失」と「その他の損失」に分けられ、以下のようにになると想定される。

・ 経済的損失

- 消費減による直接的な経済損失は 5,100 万
(間接的な経済損失も含めると 1 億円弱)
- 雇用についても年間 7 名の損失
※ 税金についても一定の影響がある

・ その他の損失

- 高校が廃校となった自治体の人口減少は、近隣自治体よりも減少スピードがはやい。
- 高校生の親となるような働き世代ほど近隣の高校が存置する市町村に転出する。(本町は釜石市と盛岡市の転出が最も多い)
- 大槌町への U I ターンが減少 (高校時代までの町内事業所・企業の認知率が U I ターン希望に影響を与えるというデータあり)
- 義務教育卒業後の学びの保障を行うことが困難になる。
- 町内の地域づくり行事 (お祭り等) への参加が減少する。(現状、釜石市内の高校の行事と大槌町内のお祭りの日程が重なっており、生徒は高校行事へ参加している。)

3. 大槌高校が魅力化を考える上での前提とすること

[これからの社会]

・ 技術革新

Society5.0を迎えるこれからの社会の変化は加速度的に早くなっており²、もはや社会の変化を予測しづらくなっている。2030年には技術革新（IT・IoT）により産業構造や社会の変化、人口構造・高齢化などによる雇用環境の変化、就学就業構造の変化等が起こる可能性がある。（必ずしも特別な知識・スキルが求められない職業に加え、秩序的・体系的操作が求められる職業については、人工知能等に代替される可能性が高い。）

・ 人生100年時代

いまの高校生の年代は人生100年を迎える。生涯学び続けられる力、2つ目の人生を生きる力を身につけるため、高校教育段階においても「学び方を学ぶ」（Learn how to learn）ことの重要性が増している。

・ 広がる格差

子どもを取り巻く社会経済的な格差が広がっており、生まれ育った環境によって将来が左右されている状況にある。また地域間の格差も進んでおり、大学進学率は都市部では高く地方では低い傾向が見られる。

[岩手県の教育を取り巻く環境]

・ 幸福な地域社会の実現

岩手県は県民一丸となって取り組んできた復興の実践で培われた一人ひとりの「幸福」を守り育てる姿勢と「つながり」を大切にしてきた強みがある。このため県の総合計画では、県民一人ひとりが互いに支え合いながら、「幸福」を追求していくことができる地域社会の実現を目指しており、教育はその中においても重要な役割を負っている。³

[大槌町を取り巻く環境]

・ 東日本大震災からの復興

東日本大震災津波によって戦後最大規模の自然災害の被害を受けた大槌町は、困難な環境に置かれながらも、逆境に屈することなく復興させてきた。

・ 人口減少と少子高齢化

人口減少や少子高齢化により、地域活力が失われており、地域課題の解決や地域内での価値創造の担い手が不足している現状である。

² 文部科学省 Society 5.0 に向けた人材育成 ～ 社会が変わる、学びが変わる ～p3・p5

³ 岩手県教育振興計画（中間案）p8 参照

4. わたしたちが目指すもの

1) 魅力化コンセプト

「大海を航る、大槌^{ハンマー}を持とう」

2) 目指す人材像

- ・ 意志がある（自立）
自らの志を深め、物事を探究する意欲を持ち、自らの進むべき道や地域社会の課題をジブンゴトとして、主体的に行動ができる人
- ・ 仲間とともにある（協働）
世代や地域、言語が異なる人との交流を通して、他の価値観や文化等の多様性を受容し、立場の違いを越えて共創することができる人
- ・ 逆境から創り出す（創造）
予測できない未来や想定外のこと、困難な状況を乗り越えるためのしなやかな心を持ち、必要に応じて助けを求め、体験から学びを得ようとする姿勢を持ち合わせ、新しい価値を創ることができる人

3) 目指す人材像が育まれる大槌の地域性

※大槌の持つ地域性（人を育てる土壌）が目指す人材像の育成に寄与する。

下記に挙げる大槌が持つ地域性をさらに高めるため、関係機関が一体となり推進することが必要である。

- ・ 海 —地域—
大槌の海は大海に漕ぎ出す船を支える海である。高校生自らが地域から受容されていると感じ、地域と積極的に関わろうとすることを応援する地域性が、郷土への愛情や誇りを獲得することにつながる。またその経験が、地域の外に出ても拠り所となり、地域へ貢献しようとする意欲を育む。
- ・ 空 —希望—
大槌の空は、希望を持つ者が見上げた時に受け止める空である。自らの願いや志を本音で発言したり、相談したりできる仲間や大人の存在がいるという地域性が、高校生の希望を育む。また異なる他者との対話を通して、願いや志をより鮮明にし、高校生自身の生き方を見直す機会となる。
- ・ 山 —多様性—
大槌の山は、様々な生き物が共生できる山である。異なる個が尊重され、多様な価値観を持つこと

が許容される地域性が、高校生の子由な発想を生む土壌となる。正解がない課題に向き合い、その解決には全く新しいアイデアが求められる地域だからこそ、年代や立場を越えた多様性を育てることが持続可能性につながる。

・ 風 —挑戦—

大槌の風は挑もうとする者を応援する風である。願いや志を実現するためには、「挑戦」が必要である。他者の挑戦に協力し、それぞれの挑戦が肯定・応援され、失敗が許容される地域性が、挑戦をする高校生の背中を押す追い風になる。

4) 学校の目指す姿

① 生徒一人ひとりの目標が応援され、それぞれの持つ強み（大槌^{ハンマー}）を見つけられる学校

個々により興味や関心は異なり、また学びや体験を通して変わっていくものである。それぞれの活動や進路の実現を個別にサポートし、個々の強みの発見を助け、その強みをさらに伸ばしていくための機会を創り出す学校。

② 未来社会に生きる力をつける学校

急速に変化する時代を生き抜くために必要な力を、体験等を通して主体的に身につけることができる機会を創り出す学校

③ 多様な価値観で多様な個性を支える学校

生徒の持つ様々な個性が受容され、その個性を伸長させることができ、地域や外海（外界）の人々との交流を通して、自らのアイデンティティを確認し、自分に自信を持つことができる学校。

④ 地域が学びを育て、学びが地域を育てる学校

生徒が積極的に地域と関わることを通して学ぶ機会を創る。また地域も高校生との関わりを契機とし、地域そのものが育つための一助となるような機会を創り出す学校。